

# 薬の伝言板～漢方薬～



No.277 2020年12月

丸子中央病院 薬局

## 漢方薬とは？

漢方薬とは、自然界にある植物や鉱物などの**生薬**を複数組み合わせで作られた処方薬のことを言います。

一般的に使われている西洋薬は血圧を下げる、解熱、鎮痛といった特定の症状や病気に対して効果がある成分から作られています。

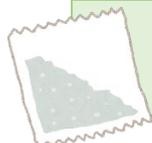
一方で漢方薬は特定の症状に対する効果よりも体全体の状態や体質などに対し、複数の生薬を組み合わせることで症状や体質の改善をすることができます。例えば、風邪の症状に対して解熱・咳止めの成分で症状を治すというよりも、身体を温めるような生薬の成分で身体を休めたり免疫力を高めます。

どちらの薬が優れているというわけではなく、現在は医療の現場で西洋薬と漢方薬を併用し両者の特徴を活かして治療をおこなっていくという考え方が広がってきています。



## よく使われる漢方薬

かっこんとう 葛根湯	風邪のひき始め、首や肩のこり、頭痛などに適しています。
まおうとう 麻黄湯	咳や寒気といった本格的な風邪の症状に適しています。インフルエンザにも使われています。
しょうせいりゅうとう 小青竜湯	鼻水、鼻づまり、痰の出る咳、花粉症などに適しています。
りっくんしとう 六君子湯	食欲不振、胃もたれ、胃痛などの症状に適しています。
よくかんさん 抑肝散	イライラ、怒りやすい、不眠症などの行動・心理症状に適しています。
しゃくやくかんそうとう 芍薬甘草湯	足のつり、筋肉の痙攣に適していて、即効性があるとされています。
だいけんちゅうとう 大建中湯	便秘や腹部膨満感、腹痛など腸の症状に適しています。
ぼうふうつうしょうさん 防風通聖散	肥満な人の便秘やむくみなどの症状に適しています。



## 漢方薬に副作用はない？



漢方薬は副作用が少なく安全なイメージがあります。しかし副作用が全く発生しない薬はなく、頻度は高くないものの生薬の有効成分による副作用が発生することがあります。漢方薬をいくつか併用していたり、長期間服用している場合に副作用のリスクが高まります。漢方薬は生薬の組み合わせが豊富なので別の薬でも同じ生薬成分が含まれていることが多く、また薬局やドラッグストアで購入できる一般医薬品の中にはメーカー独自の名称になっていて漢方薬だと気づかずに重複服用してしまうリスクもあります。

生薬	副作用症状	含まれている漢方薬
かんそう 甘草	偽アルドステロン症；血圧があがる、むくみ、筋肉痛、手足の脱力感 など	葛根湯、小青竜湯 芍薬甘草湯 など
まおう 麻黄	有効成分のエフェドリンによるドーピング反応陽性、動悸、不眠、多汗、胃もたれ など	麻黄湯 葛根湯 など
おうこん 黄芩	間質性肺炎、肝機能障害、発熱、乾いた咳、呼吸困難、全身のだるさや痒み など	小柴胡湯 防風通聖散 など

## 漢方薬を正しく使っていただくために

漢方薬は一人一人の体質や症状に合ったものを選択することで最も効果が発揮されると言われています。言い換えると同じ症状であっても使う人の体質によっては十分に効果が発揮されない場合もあります。



患者さんに適した漢方薬を選択するために医師や薬剤師は様々な基準を用いています。その一つが「証」「気・血・水」と呼ばれるものです。

「証」は、体質・体力・体格・症状の現れ方といったその人の状態や体質を示すものです。体力や抵抗力が充実している人は「実証」、体力がなく弱々しい人は「虚証」と言います。「気・血・水」はそれぞれ「気」は気力や神経の働き、「血」は血液、「水」は血液以外の体液の働きを指していて、だるさ・血行不良・むくみなどの原因を探ることが出来ます。これらの情報を組み合わせることで患者さんの今の状態を知ることができ、適切な漢方薬が選ばれています。



漢方薬は西洋薬とは異なる考え方で作られてきた薬で、体質改善のような効果も期待できます。しかし、使う漢方薬の選び方や副作用についても独特な特徴があるので。

漢方薬に興味が出たりわからないことや不安な事がありましたら、ぜひ医師や薬剤師にご相談ください！

